

本番用モデルでの文字書き結果

2016年4月30日(土)
日本メカニズムアーツ研究会
佐々木三郎

(1) 本番用モデルについて

写真1は本番用モデルの途中段階のものですが、文字書きはゼンマイ作動で書くことができるようになりました。

前回説明しましたように文字書きは墨を使わずに水で書く方式にしました。利点は墨が飛び散って装置を汚さなくて済みます。また墨の場合は時間が経つと固まってしまう。その都度筆をはずして水で洗う必要があります。筆の位置決めの手間と筆を水で洗う手間が省けます。

またインクと用紙の消費がありません。

欠点は時間が経つと消えてしまうので紙に記録として残せません。

また用紙に文字のにじみが出ます。

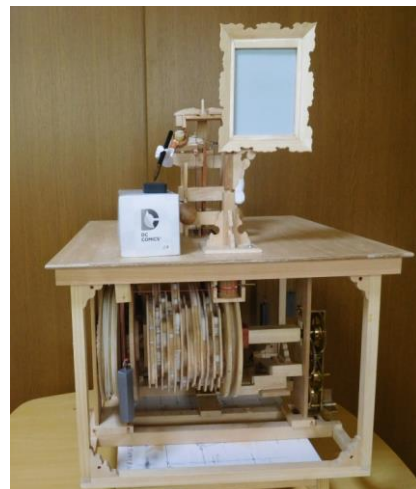


写真1.本番用モデル

筆(図1参照)ははらっく工房復元モデルとほぼ同じ穂先の長さ27mmのもの(榎本氏提供品)にしました。バラックモデルの筆の穂先の長さは15mmでした。



図1.筆

(2) 本番用モデルでのカム修正結果

写真2はバラックモデルでの最終文字結果です。



写真2.バラックモデルでの文字結果の4文字

上記バラックモデルのカムを本番用モデルに取り付けて書かせた結果が写真3です。水で書かせるので記録するためには消える前に写真をとる必要があります。竹以外はかなりずれたものになっています。



写真3.バラックモデルのカムを本番モデルに取り付けた結果の4文字

本番モデル用カムを少しずつ 32 回にわたり修正した結果が写真 4 になります。
本番モデルでは左右方向の比率をバラックモデルの 83% に糸掛けの位置を変更しました。



写真 4.本番モデルモデルの 4 文字結果

写真 5 は東野氏の復元モデルの 4 文字です (ネットより)

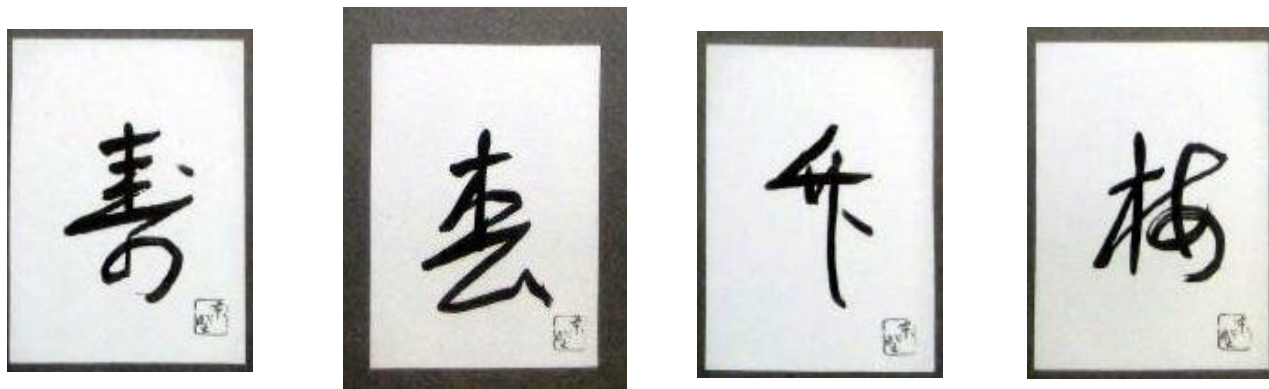


写真 5.東出氏の復元モデルの 4 文字

写真 6 はバラックモデルの筆で書いた手本の文字です。

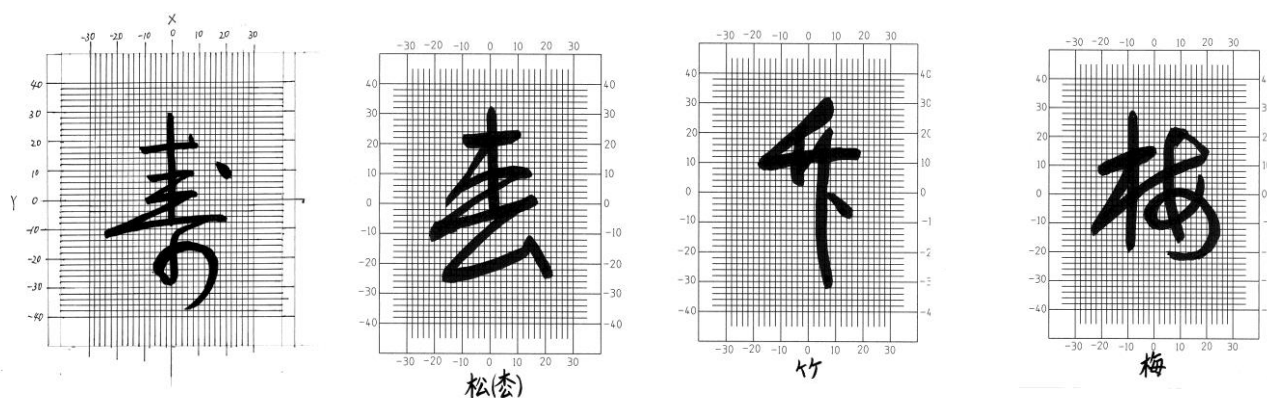


写真 6.バラックモデルの筆で書いた手本の 4 文字

(3) 設計カム形状と本番用モデルのカム修正結果の形状比較

次のページ以降に 4 文字の設計形状と修正結果の形状を添付します。

(4) 今後

これから着物を着せて書かせた結果がどうなるのが課題です。

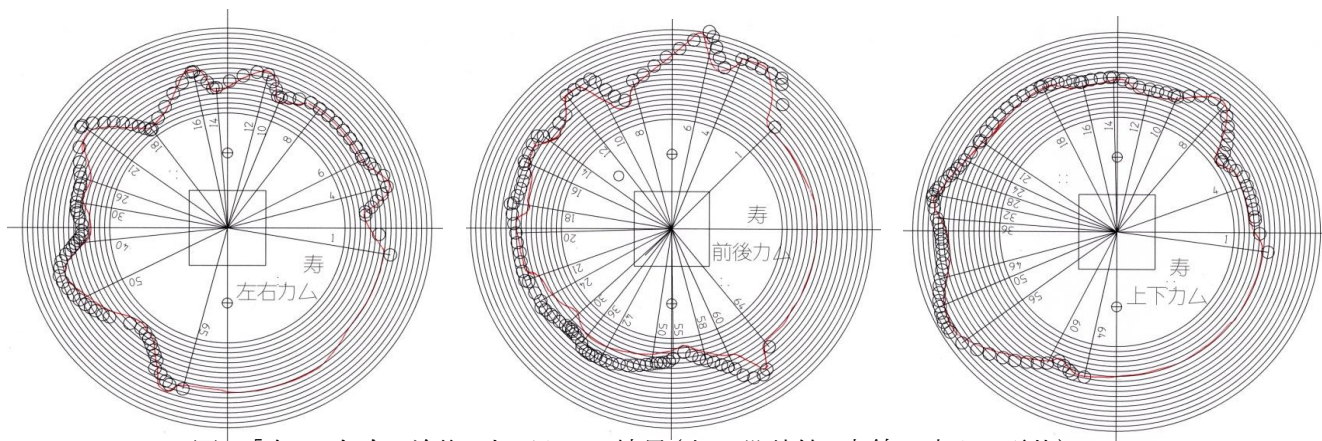


図 2.「寿」の左右、前後、上下カムの結果(丸は設計値、赤線は実カム形状)

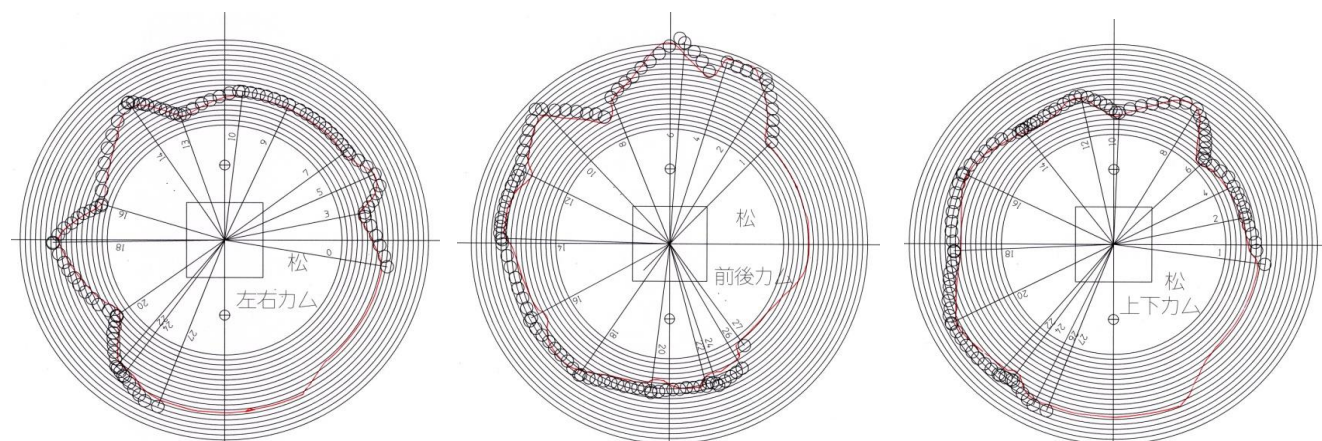


図 3.「松」の左右、前後、上下カムの結果(丸は設計値、赤線は実カム形状)

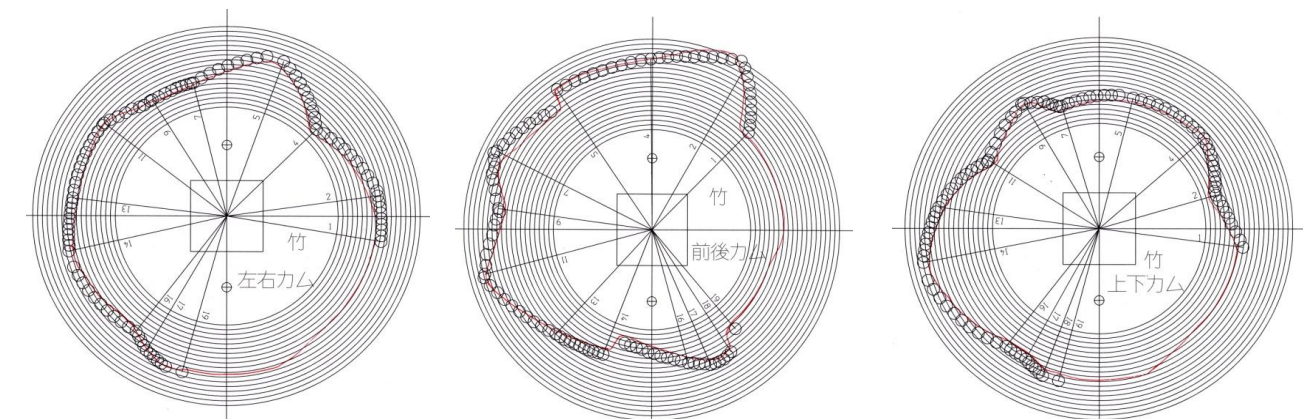


図 4.「竹」の左右、前後、上下カムの結果(丸は設計値、赤線は実カム形状)

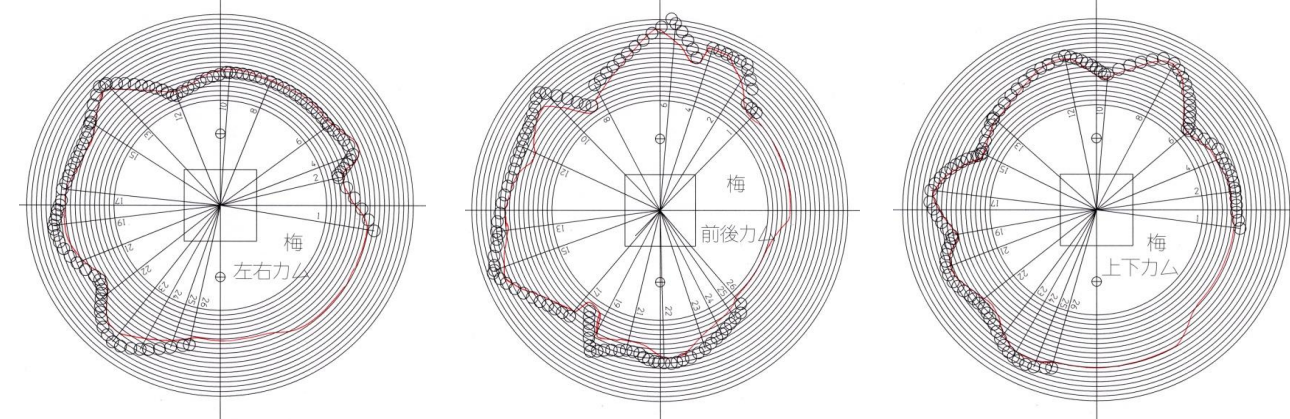


図 5.「梅」の左右、前後、上下カムの結果(丸は設計値、赤線は実カム形状)